

## 新入学生の保護者の皆様へ

山形市立第八中学校 校長 栗田 和真

3月に小学校の卒業を控えた保護者の皆様におかれましては、これまでのお子様の成長を振り返ると一際感慨深いものとお察しします。また、4月から始まる中学校生活に期待が膨らむ一方、多少の不安を感じる時期でもあるのではないのでしょうか。中学生の3年間は長い人生の中でも心と体が大きく成長する時期です。生活環境や人間関係の変化も加わり悩みや苛立ちを心に抱える思春期を保護者の皆さんも経験してきたことでしょう。

大人への自立に向かって、懸命に歩み続ける子どもの最も大きな支えとなるのは、言うまでもなく保護者の皆様です。大人が果たすべき役割は、子どもの成長とともに変わって行きます。4月から家庭と学校が手を携えて、一人ひとりの子どもの成長を支えて行くことを願っています。以下に、子育てに関する2つの説話を紹介させていただきます。

### 「子育て四訓」

- 一、乳児はしっかりと肌を離すな
- 一、幼児は肌を離せ 手を離すな
- 一、少年は手を離せ 目を離すな
- 一、青年は目を離せ 心を離すな

緒方 甫さんが子育てについて語った言葉です。思春期を迎えた子どもは会話が少なくなり、大人の言うことを素直に受けとめられなくなることもあるでしょう。しかし、見方を変えたと、親に自分のすべてを委ねていた子どもが、懸命に自立しようとしている姿の裏返しとも言えます。「少年は手を離せ 目を離すな」つまり、いつまでも手を握り続けているのは、子どもが自立のタイミングを逃してしまうということです。ただし、中学生は社会経験が浅く未熟な存在でもあります。目を離さずに、程よい距離感を保つことが大切です。

### そったくどうじ 「啐啄同時」

禅語に「啐啄同時」という言葉があります。鳥の雛は、自分のくちばしで卵の内側から殻をつついて生まれ出ようとします。すかさず、親鳥は外から殻をついばんで雛が生まれ来るのを助けてあげます。その絶妙なタイミングが、元気な雛の誕生には欠かせないのです。もし親鳥が、いつまで経っても殻をついばんでくれなければ、雛は殻の中で力尽きてしまうでしょう。しかし、雛が殻の中で十分に成長する前に、親鳥が外から殻を破ってしまったら、その行く末はまた同じです。賢い親鳥は「啐啄同時」をわかまえているのです。

「子どもが失敗する姿を見たくなくて、先回りして失敗を防いだり、苦労しないように助けたりしてはいないのでしょうか。子どもは悩んだり、迷ったりして成長して行きます。そして、それを見守ってあげることが大切です」競泳・池江璃花子選手の母親の言葉です。